

「空飛ぶ広報室」 有川 浩 著 幻冬舎 2012年7月発行

主人公・空井大祐は、航空自衛隊の戦闘機パイロットとして活躍していました。憧れのブルーインパルスのパイロットに内定し、夢に一步近づいた矢先、交通事故に遭ってしまいます。交差点でトラックに衝突されるという不運な事故により、パイロットとしての条件を満たせなくなり、広報室へ異動。広報官として新たな道を歩み始めることになります。物語は、空井が広報官として航空自衛隊や戦闘機パイロットの魅力を一般の人々に伝えるために奮闘する姿を描いています。彼は、テレビ局のADとして自衛隊の取材を担当する稲葉リカと出会い、彼女との交流を通じて、自身が抱えていた「ブルーインパルスに届きそうで届かなかった」苦悩を乗り越え、広報官として成長していきます。この作品は、自衛隊に対して無関心だったり、否定的なイメージを持っていたりする人々に対して、広報室の活動を通じて自衛隊の実像を知るきっかけを与えてくれる内容となっています。

私がこの作品を知ったのは、ドラマの再放送がきっかけでした。放送当時から話題になっていたことは知っていましたが、当時はあまりドラマを見ておらず、見逃していました。再放送で人気作が取り上げられていたのを見て、「そんなに面白いなら見てみよう！」と思い、視聴を始めました。ドラマを見終えた後、映像で感じた面白さが原作ではどのように描かれているのか気になり、本も手に取ってみました。読み進めるうちに、ドラマのシーンが頭に浮かび、原作の表現がそのまま映像に反映されていることに驚きました。ドラマを見ていたことで、原作の内容もスムーズに理解でき、両方のメディアから作品を楽しむことができました。

学生の皆さんも、気になるドラマや映画、アニメなどの映像作品から原作の本を読んでみるという楽しみ方をしてみたいはいかがでしょうか。ちょっとしたきっかけから、本の世界に触れてみてほしいと思います。